

山口県文書館蔵「近藤芳樹日記」翻刻（十四）

久保田 啓 一

凡 例

- 漢字は、常用漢字に含まれるものはそれを用い、他は正字体とした。ただし、「并」のように、組版の都合を考慮して俗字を使用した場合がある。また、明らかな誤字は訂正した。
- 平仮名・片仮名については、書き分けに意味があると考えられるため、底本の表記に従うのを原則とした。平仮名の文脈中にあられる「ニ」「ハ」「ミ」もそのままとした。なお、合字の「ヤノ」などは、それぞれ「コト」「シテ」などに開いた。
- 適宜句読点・濁点・半濁点・中黒を補った。
- 漢文の訓点は、明らかな誤りを正した以外は底本のままとし、新たに補うことはしなかった。
- 踊り字は、ゝを「々」とした他は底本通りとした。
- 校訂者による注記は、〈表紙〉のように（ ）で示し、底本に使用される（ ）とは区別した。
- 欄外や行間の補記、割注の類は、〈欄外〉（○○○○）・〈傍注〉（○○○）・〈割注〉（○○○○）のように「」で括り、底本に使用される「」とは区別した。
- 底本の行移りには従わず、内容に応じて適宜改行した。また、改頁を示すことはしなかった。
- 闕字・台頭・平出の類は無視した。
- 日付・天候の記述から本文に移る形式は冊によって異なり、統一がとられていないが、日付・天候を一字下げで書き始め、本文を続

ける形式に統一した。

- 通読と検索の便を考え、各冊の最初と最後には〈第〇冊 表紙〉（以上 第〇冊）と校訂者注記を掲げ、各月の初めには〈文政九年〉のように該当年を注記した。

一 全冊の本文掲載終了後、索引を付す予定である。

〈承前〉

嘉永七年

正月一日。曇。

明詰より一応固屋下りして、のし御上下二改め出仕。鶏鳴二横田・新庄出勤二付、交代としてかへり、諸処廻礼。なほ御帳二出て青蛭五十疋を納めたり。今日非番。

二日。晴、夜大雨。

晚出宵詰。

三日。晴。

非番といへども両番詰二付、八ツ時より出勤。今日御謡初、夜五ツ時相済。今日迄のしめ上下也。

四日。曇。

朝出明詰。

五日。雪。

非番。

六日。曇。

晚出宵詰の処、御使者横田勝三郎に当れるを、予にたのめるにより

て、諸処に行く。

七日。晴。

非番。

八日。曇。

朝出明詰。

九日。雨。

非番。

十日。晴、フリく雪。

晚出宵詰。

十一日。曇。

〔小書〕〔兩番詰なり〕御役式どもすみたる比より、異船豆・相の沖にミゆよし、浦賀より注進ありしによりて、殿中いみじくさハぎ出たり。

十二日。雨。

朝出宵詰。

十三日。曇。

非番。

十四日。曇。

よる大雨となる。晚出宵詰。

十五日。雨。

御登城。非番。

十六日。晴。

朝式明詰。アメリカ船一艘ハ本牧辺にいかりおろしたり。此外にも二三船沖合にミゆるよしなれども、此御方などハ未ダ御受場御受取無之ゆゑ、まづ出張もなし。たゞ木原源右エ門・岡部内記など其外浦賀まで駆行のミ。此ころ御国より御固メの人々日々到着なれば、器械ハいまだ揃ハねども、出陣ハたやすき事ながら、公義より御免許なきゆゑに用意のミにて出立す。

十七日。晴。

非番。アメリカ船六艘浦賀に着。本牧につなぎし船も、此方より役

人通事等罷越て、浦賀へ引かへさせたりとなり。仍之諸方御固メ嚴重

になれり。予今日原孝庵が妻と共に向島の梅見にまかれり。舟行也。

詠歌別ニ記す。大七ニ於て中食して、くれて後かへれり。

十八日。曇。

晚出宵詰。アメリカ船、或八十艘とも、或ハ七艘ともいふ。一艘ハ瀬にのり揚たるをもよくおろしたりとなり。其時井伊侯より被仰出て、助船被差出べきの所、其内におろしたるに仍て無難也。

十九日。雨。

非番。芸邸の金子徳之介ヲ訪ひ、易学纂要ヲカル。

廿日。雨、後に晴。

朝出宵詰。

朝出宵詰。

廿一日。晴。

塙氏へ行て久しく閑談してかへる。

廿二日。晴。

おそ出宵詰。

廿三日。晴。

非番。前田夏蔭を訪ひぬ。彼家にて雲州之藤田周右エ門に逢ぬ。

廿四日。曇、夕方雨少し。

朝出明詰。雲州之藤田周右エ門より菓子一箱をおくる。歌をつかはしぬ。けふ広島之鳳郎蘭陵并二井筒ヤより書状到来。

廿五日。晴。

原孝庵がりへまかり、たか子と歌よミカハす。狩野氏にあふ。

廿六日。晴。

異船大森の沖あたりまで乗入たるよしにて、世上さわがし。御屋形も御門とめとなれり。たとへ御用たりとも御用所へ届たる上ならでハ御外出ならぬと也。今日おそ出宵詰。

廿七日。晴。

非番。

廿八日。晴。

朝出明詰。

廿九日。夜雨。

非番。

二月（嘉永七年）一日。晴。

おそ出宵詰。今日益田越中殿来着。同勢二百五十人。

二日。曇、少雨。

非番。

三日。曇、少雨。

〔頭欄〕〔○〕朝出明詰。両三日已前ニ御国より、大筒七十二挺、

小筒數百丁、兵糧其外、千石積許之舟三艘にて廻れり。明日大筒已下

一応御屋形へ取入らるゝよし也。

四日。晴。

非番。今井谷・麻布等ニ至る。越中殿其外を訪ふ。

五日。雨。

おそ出宵詰。

六日。雨、後二晴ル。

むら松丁二宮といふ医家ニ鈴木重胤寓セリ。これが許へ岡部東平と
予と会して閑談、来る十八日ニ会すべきよしを約す。かへり二原二立
寄ル。

七日。晴。

朝出明詰。大筒其外を運ぶ御国の角力に菊が浜といふあり。此者願
二よりて車力の頭取となる。

八日。晴。

非番。

九日。晴。

おそ出宵詰。

十日。晴。

非番。

十一日。晴。

朝出明詰。

十二日。晴、夜小雨。

本八丁堀高橋の手に小池小兵衛（割書）〔言足トイフ〕トテ石間
屋アリ。コレガ許ニ会ス。塩筈ノ茶碗（傍記）〔カ〕ヲ遣ハス。

しほけとハ器の名にて世の中にかをりは（傍記）〔ミカ〕てるハ
木のめ也けり

同席ニテ藤本権兵衛（割書）〔時夏、八丁堀比々谷丁、シカハヤ〕、僧
弁智（割書）〔本庄猿江、重願寺〕、和田清三郎重雄（割書）〔南八丁

堀五丁目〕、并ニ東平・重胤・予ト五人ツドフ。

十三日。晴。

おそ出宵詰。無事。

十四日。晴。

非番之所、横田勝三郎病氣ニ付、加番明詰。

十五日。晴。

朝出明詰。

十六日。曇。

騾尉様御着ニ付、両番詰。

十七日。晴。

おそ出宵詰。

十八日。雨。

今日騾尉様御駕養子御願濟ニ付、両番詰。向後若殿様と相唱可申段
御沙汰。予も其御知せの御使者へ御越（傍記）〔カ〕方々かけありく。

十九日。曇。

朝出明詰。

廿日。晴。

おそ出宵詰。

廿一日。晴。
非番。
廿二日。晴。
朝出明詰。
廿三日。曇。
おそ出宵詰。
廿四日。曇。
非番。
廿五日。雨。
朝出明詰。
廿六日。晴。
おそで宵詰。
廿七日。晴。
非番。
廿八日。晴。
朝出明詰。
廿九日。晴。
おそで宵詰。
晦日。晴。
非番。他出。
三月（嘉永七年）一日。晴。
二日。晴。
おそ出宵詰。
三日。晴。
御登城也。非番。
四日。晴。
朝出明詰。
五日。晴。

おそ出宵詰。御奏者青山大膳亮様其外三人御出。若殿様御元服御習礼。

六日。晴。

〈頭欄〉〔○〕非番。水戸御邸ニテ藤田建次郎を尋ネ、大祓執中抄ヲカス。序ヲアツラフ。

七日。晴。

朝出明詰。青山様其外御出。若殿様御習礼。

八日。雨。

おそ出宵詰。明日御元服ノコトニテ御奉書到来。仍て若殿様御老中廻り。

九日。晴。

御両殿様、六ツ過御登城。騾尉様、長門守と御改名、従四位下侍従に御任官被遊候。仍之予非番より番丁辺へ御使者ニまゐり、松平長門守といふ名、御奏者の内ニこれありしに、此御方長門守と御なり候ニ付、今日直に安房守と御改なされしと也。

十日。雨。

朝出明詰。のしめ上下ハ昨日一日にて、今明日ハ本腹上下也。

十一日。晴。

おそ出宵詰。午後上下也。

十二日。晴、時々曇。

上野の花を見にまかるも、はや盛り過たり。それより原へ立寄、夕がた二本八丁堀高橋なる小池小兵衛の亭ニまかる。東平其外数人雅談。

十三日。曇。

朝出明詰。

十四日。小雨。

おそ出宵詰。

十五日。雨、後晴。

非番手。

十六日。雨。

朝出明詰。

十七日。晴。

おそ出宵詰。昨今より浦賀出張人数少しづゝあり。近日の内皆々出張のよし也。

十八日。晴。

〔頭欄〕〔〇〕六ツ時より向島花見ニまかり、直二本庄猿江なる重願寺弁智法師の室の会にまかる。東平并ニ小池小兵衛・和田清三郎及ビ森下三軒丁ニスム金坐佐藤治右エ門信古、マタ鈴木重胤モ来ル。

十九日。晴。

朝出明詰。

廿日。晴。

おそ出宵詰。

廿一日。晴。

非番。今日浦賀諸役出張。

廿二日。晴。

朝出明詰。

大小こしらへ

一刀身一両式歩

一つば一両式歩

一ふち式百二十一匁

一さめ五両

従駕日記 四

三月廿三日。晴。

おそ出よひづめ。

廿四日。晴。

非番。今日より浦賀御人数差出さる。

廿五日。晴。

今日弾正殿出張。朝出明詰。

廿六日。晴曇不定。

非番。横田勝三郎全快によりて也。

廿七日。雨、雷烈し。

おそ出宵詰。今日にて浦賀御人数不残出切也。

廿八日。晴。

非番。外出。

廿九日。晴。

朝出明詰。今日内々番頭へも達して今井谷御殿へまゐる。

四月〔嘉永七年〕一日。

非番。林主税と神明前辺より通筋を遊行。夕方原へ行、日くれてか

へる。

二日。晴。

おそ出宵詰。朝の間（マ）次郎来訪。

三日。晴。

非番。

四日。晴。

朝出明詰。

五日。晴。

非番。三田の松平主殿頭様の下邸ニ瀬戸四郎太夫久敬が居をとふ。

六日。晴。

おそ出宵詰。今日中奥封ベリナル。予出勤。

七日。晴、夜雨。

非番也。今井谷にて百人一首講尺畢ル。その後蒲生憲一が向亀土の亭へまねかる。栗屋俊則・近藤正麗同伴。至て念入たる馳走也。くれがた比、余ハサキニ出て十番の林田へ暇乞としてまかる。また粗膳也。夜ニ入て雨。俊則・正麗立よりたるを同伴にてかへる。

八日。晴。

朝出明詰也。瑞聖寺御参詣。今日前田夏蔭に伏見羊羹、良齋に別製唐紙三袋、瀬戸の藤田ニ借島の広海苔ヲおくる。

九日。晴。

非番。

十日。晴。

おそ出宵詰。

十一日。晴。

非番。

十二日。晴。

朝出明詰。

十三日。晴。

非番。予ガ餞別会ヲ本庄猿江ノ重願寺ニテ行フ。東平ノ催也。

十四日。晴。

おそ出宵詰之処、齋藤謙藏明暁出立ニ付、予一人にて寐ず番を勤む。

十五日。晴。

御登城。予明詰より御朝飯をつとむ。今日非番。

十六日。晴。

朝出宵詰。今日より虎のまにて勤候。吉田寅次郎といふ者、先年欠落せしニ付、御家人召放されたる処、立かへりたるニ付、またく用られて江戸へ学問ニ出めたるに〔割書〕〔但親類杉百合藏が厄害トシテ也〕、此度何故にかアメリカカ船ノ下田へかゝりみたるニ入込、本国へつれ行くれ候へと頼ミたる所、これハわが邦の大禁なることを彼も知たる故ニ承引せず、バツテイラにてかへしたるを、すぐニさとられ、暫く下田ニゐるが、昨日童丸籠にて此地へ引れたり。今日より御究始るニ付、見知候人差出様ニ公義所へ申来れりとなり。また外ニ足輕の欠落者某といふ者同伴のよし也。

十七日。晴。

おそ出宵詰。

十八日。晴。

両番詰ニ付出仕。今日薩奥二侯・肥後侯御父子、御客トシテ招請御引請。御両殿様・御三末家不残夜ニ入テ御帰りなり。

十九日。晴。

朝出明詰。御納戸へ書物類四十八包ヲタノム。

廿日。晴。

おそ出宵詰。瀬戸祐庵、予ガ石摺二卷ヲ持カヘル筈也。

廿一日。晴。

非番。あざぶ・今井谷・紀州屋敷・永田馬場ノ村田春野方ナドニ暇乞ニ行。春野老母死去候付、金ニ朱香典トシテツカハス。ソレヨリ表

六番町ノ小林歌城主ニ行テカヘル。

廿二日。晴。

朝出明詰。粟屋四郎右エ門へ唐文箱ヲカス。

〔扉〕

付紙

十四、〔割書〕〔自嘉永七年四月廿三日 至同年六月廿七日〕〔安政元年〕帰国道中

寄居日記〔題記自筆ニアラズ〕

〔本文〕

四月廿四日。晴、タヨリ小雨。

出立ノ用意ヲナス。風月集ハ須原ヤノ浅野弥七ニ託シヌ。職原抄ハ町奉行マデ願本サガリタルヨシ也。コレマタ同人ニ頼ム。執中抄ハ宮崎又兵衛受持也。

石摺二卷、二階養安取カヘリ、箱ハ粟屋四郎右エ門取カヘル。萬事

ノコトハ御銀子方高津小藤太ニ託ス。

易纂要ニ菓子一箱ヲソヘテ、矢倉ノ専助ニ、金子徳之介ヘカヘシク
レヨトタノム。帝王譜一卷モ、本八丁堀高橋西詰ノ小池小兵衛ヘ遣シ
クレヨトタノム。

荷物ハ、着物其外一荷、刀類一箱、以上二品大到来ヘタノム（割書）
〔伏見置也〕。大廻り一荷、先日三田尻船ヘ出ス。一荷、出立ニノコ
シオク。コレマタ三田尻船カ。大玉小十郎受合也。

駕籠ハ粟屋三十郎ニタノム。台ノ御座も出立ノ時同人ニタノム。

〔頭欄〕（○）小ブリ染物一反、小紋羽織一反、子供頭巾三ツ所ニ
ツ、ミテ風呂敷包ニシテ、井関源吾ニワタス。

書類類四十八包、御小納戸ヘタノム。

廿五日。クモノレリ。タガタヨリ小雨、夜ニ入テ大雨。

鶏鳴ニ御屋形ヲタツ。

なきそめし上野のをかのほとゝぎすつぎてもきかでけふぞたちぬ
る

〔頭欄〕（○）虎十郎ヲ残シ置テ事トモ行ハス。本郷いつ蔵ヤトイ
フ呉服ヤノ横丁ニアル旗本ノ長屋ニ鶴峰戌申ガ居ルヲ訪ヒテ、江戸ヲ
ハナル。

板橋宿（小書）（二里八丁）うかれ女多し。土俗これをならひてい
とイヤしげなり。コ、ニテ中食ヲタウブ。戸田川舟わたし、あがりて
蔵（小書）（二里半）ニツク。コノワタリヨリ雨イミ、ジウフリ出タリ。
浦和（小書）（一里十丁）ヲ過テ大宮ノ駅白田屋ニヤドル。駅ノ入口
ニ武蔵国一宮アリ。コレニ依テ大宮トイフ。コノ駅ノ入口ニ棒杭アリ。
浪人舟こぼれ不可入トアリ。

一分三百文

一貫貳百文 蕨マデ 四百文 祝義

四拾文 ワラツ

貳百六拾四文 中食 六拾三文 浦和

ヤドル家ヲかねなるやトイフ。ヨキヤド也。

○貳朱

廿六日。雨。

○一步 ハカネナルヤ

大宮白田ヤヤ夜明テ後ニタツ（割書）〔上尾マデ二里八丁〕。上尾ヨ
リ桶川ヘ三十丁、桶川ヨリ鴻巣ヘ一里三十丁。ヒル食カネナルヤ。ヨ
キ茶屋也。鴻巣ヨリ熊谷マデ四里八丁。鴻巣ヨリ熊谷ノ間ニ綱八幡ト
テ渡辺ノ綱ガ勸進シタリトイフ宮アリ。小社也。ソレヨリスコシ来テ
左右ヘ別レ道アリテ石地藏タテリ。左ヘユクハ本街道也。右ヘユケバ
忍ノ城下ニテ、コ、ヨリ二里程ナリ。三里バカリ来テ荒川ノ川堤アリ。
相応ノ川ナリ。熊谷ノ宿ニツク。ヨキヤド也。雨ハル。コノワタリニ
吉見トイフ所アリ。吉見家ノ旧地ニヤ。

廿七日。晴、夜雨。

○金一步

熊谷ナル瀬戸屋ヲ夜明テタツ。深谷ヘ二里卅丁、深谷ヨリ本庄ヘ二
里廿九丁。コノ間ニ普濟寺トイフ寺アリ。コノ境内ニ岡部六弥太ノ墓
アリ。寺ニ木像もアルヨシナレドモ、像ヲバミズテスギヌ。本庄ヨキ
宿ナリ。コノ駅ニ巳刻バカリニ着タリケルニ、かんな川洪水ニテ川留
ノヨシナレバ、センスベナクテコ、ニヤドリヌ。

三十二文 酒手 三百八十四文 ヒル仕廻 三十六文 カリ

五十文 アンマ 六十文 ワラツ

八百二十四文 大宮タハゴ

貳朱 熊谷同 四拾文 ワラツ

三十二文 ワラツ

三十五文 茶代 八十文 茶代

三拾八文 茶代 二十文 人足ワラツ

井原孫右エ門コノ下ノカタナル逆旅ニヤドリキルヲ訪フ。日ノ入ラ
ントスル比ニカヘリタルニ、久米静馬ヲ使者トシテ答礼ヲイフ。コノ
ヤドノ次ノ間ニハ、江戸日本橋ノ町家ノ家内、娘ヲツレテ入湯ノヨシ
ニテヤドル。

・金一步

廿八日。雨、午時比ヨリ晴。

夜明テ本庄ヲ立。雨フル。カンナ川舟ワタシ、本庄ヨリ新町へ二里、新町ヨリ一里バカリ来テカラス川舟ワタシ、マタ半道バカリ来テ倉我野也。飯塚兵衛久利トイフ者ノ宅ヲ尋ネケルニ、他行シテアハズ。

いたづらにたづねこし哉驚のまだかへりこぬ谷のふるすを
くらが野より高崎へ一里十九丁、コノ間ニ左野の舟橋の古跡アリ。
こがひする妹がかきねのくハの葉の(こが)

高崎より板ハナへ一里卅丁、板鼻より安中へ三十丁、安中より松井田へ二里十六丁也。一里十五六丁バカリ来テ、びハがくはト云所ヨリ左へ入テ一里余、小道ヲ行テ妙義山也。御社壯麗也。ソレヨリ松井田へクダリテ舍ル。妙義ノ門前ニ江戸者ノすしヲ作りテ売ルアリ。ウド・椎タケ等ヲ以テツクレリ。味ヒヨシ。

百文 スシ代 一貫四百八拾四文 本庄
四拾四文 茶代其外

金二朱 松井田ニテ出ス。

松井田ニヤドル。大和ヤトイフワロキヤド也。松井田より坂本へ、坂本ヨリ二里ホド来テ関所アリ。

関守にまひハしてまじうすひ坂山の神にハ手向せずとも
廿九日。晴。

コレヨリ嶮難ニ入テ、

ワかれこし妹しなけれバうちなげきあづまハヤともたれかかくべ
き

七百五十文 松井田 五百八十四文 廿九日昼ツカヒ
晦日。昼後雨。

金式朱 塩名田丸山新左エ門方ニテ出ス。

〃式朱 和田ニ於テ出ス。

四十文 ワラツ二足 八拾文 餅

七百文 塩名田ハタゴ

百四拾式文 ヒル代 五十文 茶代

五十文 人足酒手 五十文 直介飯(傍記)〔カ〕

六川ヲ出テ平沢ノコナタニテ、

かねてゆくもとの旅路も今更にわかれとなりて袖ぬらしけり

古川某

水海のなぎさすゞしみたゝずめバ氷をかたるすハの里人

あらて□(字形不明)のかゝとつたひてたれかかくふミひらき

けん木曾の山ミチ

金一步 ヤブ原ニテ

式朱 ふしミにて

七百五十文 スワ 七百文 ヤバラ

六百文 野尻 六百七十式文 大井

七百文 ふしミ 五十文 スハアンマ

五十文 ヤバラ同 五十文 大ぬ

五十文 ふしミ 式百八十文 晦日ヒルツカヒ

式百五十文 一日同

式百五十文 二日同

式百五十文 三日同

式百五十文 四日同

百九十式文 五日 六日(嘉永七年五月)曇。

名古やニアリ。

本町一丁目 高木凝式 字ハ又兵衛

桔校屋ト号ス。コレニテ茶会・歌等アリ。菓子屋ナリ。ミをつくし

を写シオクベキ約束ヲス。

同九丁目 笹屋幸藏

〈頭欄〉〔○〕タガタヨリ招カレ、茶室美ナリ。故人麻谷来訪、マ

タ出入ノ医師(前行に補記)〔井上就寿〕一人、三人ニテ会席ヲ出ス。

笹屋、姓ハ岡谷、名ハ啓純ヒロスミ。余訥言ヲホメタルニ依テ、訥言ノ十二月

ノ屏風及同人作ノ根付白藏主ヲミス。香合ハ唐ノヌリ物、掛物ハ太郎

庵良齋不二ノ画、茶ワシコモガへ。

本町七丁目 永楽ヤ東四郎方ニテ、歌談売弘之事談ズ。大阪マデノ運賃ヲ広しまより出シ、大坂より奈古ヤマデを先払トシテ、大坂ニテ舟問屋へ出し可申との事。

張府ニテ植松庄左エ門ト同伴ニテ来レル人

野村八十郎正徳

金式朱 なごやニテ

金一步 同所にて 同式朱 さやにて

四百五十文 さや船ちん 別出也。

七日。晴。

サヤマハリ、津島ニマウツ。コ、ノ町ハツレニ風流ナル茶店アリ。ソノ前ノ酒屋ノ隠居ノナグサミニ仕置タル所也トゾ。隠居去年故人ニナリタレドモ、ナホモトノマ、ニテ事行フ。

道のべの木のためのあるじとひよりてくめバむかしの香にほひ

つゝ

今ノアルジハ歌ヨミナルヨシヲ聞テ、カクモノセリ。四日市ニトマル。

八日。晴。

津ノ瓢箪屋ニヤドル。クレ方ヨリ河喜多久太夫ノ方ニ至ル。楽ノ会ニテ十人バカリモアツマリ居タリ。ソノ内ニ三谷勘右エ門ト云者アリ。御国ノコトヲ能カタル。クハシク聞ケバ、三谷三九郎ガ本家ニテ、江戸ノ三谷ハコ、ヨリ出タルモノ也トゾ。然ルニ〔頭欄〕〔○〕逆旅ヨリ呼ニ来タリ。三宅源蔵及齋藤先生ノ嫡子同伴ニテ来レリ。新刻普公御筆ノ論語ト菓子一箱ヲ持参。

九日。晴。

河喜多氏ヲ訪フ。コノ家ノ祖ニ自然処ナルモノ也。歌ヨミ也。ソノコト歌談ニ載スベキ由ニテ、浪華マデ書状口〔字形不明〕〔傍記〕〔差カ〕出サントイフ。中食ヲシテ午後齋藤先生ノ山荘ニマネカル。眺望ヨシ。河辺伊兵衛尚古・寺田莊右エ門長興ト云兩人、ソノ内寺田ハ士、河辺ハ町人也。コノ者一一看ヲ持参、飲をツクシテカヘル。

十日。雨。

山田マデ来テ妙見町万屋喜介方ニヤドル。今夜足代翁ノ許ニマカル。相對ノ人名別ニアリ。翁大キニ歎ビ、著述ノ書トモ出シテ見セラル。

大淀ヤなほこのまゝのこゑながら千代もたゆむな浦の松風

十一日。雨。

朝ヨリ足代翁ニ行テ何クレトカタラヒ、午後外宮ニ詣テ、ソレヨリスグニ内宮ニマウツ。

おのづからミそぎハせでもいすゞ川すゞしき岸の杉のしたかげ

十二日。晴。

山田万嘉ヲ立テ六軒ヨリアヲ越ニ入り、二本木ニヤドル。ハタノ横山ニテ、

常にもといひし昔ハとほかれどすがたふりせぬはたの横山

十三日。晴。

伊賀ノ青宿ニテ聞ク。在郷ニ平無足・供無足ト云郷土アリ。平无足ハ吉凶ノ時帶刀、供無足ハ年中帶刀ニテ、月ニ六齋ノ武芸ノ稽古アリ。マタ足輕ヲ農ヨリ取テ、伊賀十二万石ノ内ヨリ六百人ホド取玉フト也。年ニ六斗アテ玉フトゾ。モトハ伊賀九万八千石ナリシヲ、打出シテ十二万石ニセリ。故ニ一反二百五十許ヨリ外ハナシトゾ。ソノ代リニハ検見ノ法アリ。○マタ義倉ノ法アリ。一株銀二百目ガケニテ六朱ノ利ヲ下サル。大家ハ幾口モモツ。小身者ハ半口ナルモアリ。コレヲ大キニソシリテ居タリ。マタ当春ヨリ一口二百目ニテ三步半ノ利銀ヲ下サル。新法モ出タリ。苛法キハマレリ。

金式朱 山田宿札

一、巻歩と三百八拾文 同所宿錢其外

一、二百文 同所にて直ニワタス。

十四日。晴。

朝なばりヲ立ツ。

一、金式朱 ナバリニテ直ニワタス。

一、八十六文 直ヒル飯

一、五十八文 多武峰スシ
泊瀬山ニテ

ちぎりあればつせの山のほとゝぎす行手ながらのこゑを聞なり
日数へし旅のやつれをはつせ川ふる川水よかげなどゑめそ

多武峰ニテ (マ)

多武峰ニマウデ、四軒茶ヤノ松屋〔傍記〕〔アンマ 五十文〕ニヤ
ドル。

十五日。晴。

吉野ニマウヅ。上市ノ渡シヲワタル。

よし野山わか葉がくれにうぐひすのなく音もをしき花のふる郷
帝廟ニマウデ、小楠公ノ歌ヲミル。

ゑりつけし矢尻のあとのかたとびらかたミにみるもかなしかりけ
り

小楠公ノ具足ヲミル。近比上箱を但馬ノ人寄附、篠崎ソノヨシヲ記
セリ。

聖堂ニテ^{つと} 五十文

三百文 サクラ菓子

よし野山花の露しむものゝふのかばねハ千代も香にゝほふらん
なほざりにこえこし岡の名をとへバむかしのミよの御はか也けり

六田ヲワタリテ山越ニカゝリ、岡寺ニマウデ、飛鳥ニ出テ、日クレ
ハテ、後三輪ニ着ク。高田ヤニヤドル。

五十とせをすぎのしるしのも〔傍記〕〔かカ〕ひもなく猶ふみま
よふミわの山本

金二朱 直介昼ハタゴヲコメテ不残、ソノ内五十文アンマ賃

十六日。晴。

小十郎ハ三輪ヨリ竜田法隆寺ノカタヘ廻ル。余ハ直介ト同伴、大和
大明神等詣テ布留社ヲ拜シ、四ツ半時奈良樽井ノ印判屋ニ着ク。興福・

東大ヲ始メ、春日・若宮等ミナ拜礼ス。サテ西村庄左エ門〔割書〕〔足
代ヨリ〕・杯ヤ〔割書〕〔重弼〕〔傍記〕〔和田弥介ト称ス〕ヘノ状ヲ遣

ハス。奈良ニ森若狭ト云者アリ。神君ヲ関原陣ノ時カクマヒタル家柄
ニテ、陣羽織ヲ持タリ。此名物差^{ふし}ヲ願ヒテユリタレドモ事行ハレ
ズ、ソノマ、ニナレリ。

高田ハサル沢ノ東ニミユ。十六夜ノ月出テ妙ナリ。サル沢ハサ又沢
ノ転ナリトゾ。三笠山ハ春日社ノアル所ナリ。

たかまどやなれもむかしやしたハしき月ふけてなくむさゝびのこ
ゑ

十七日。晴。

奈良ヲ立ツ。木津川ヲワタリ、宇治ノ万ヤニテ中食。

余二朱 中食代、残り直介ニワタス。

伏見ノ京橋ノ北ノカタ、針ヤトイフ逆旅ニツク。荷物等江戸より着
みタリシユエニ、相改テ休息ス。

十八日。晴。

朝トク京ニ入ル。ばせを堂ヲ訪テ公成ニアフ。金二朱菓子料ヲツカ
ハス。中食ヲ仕廻、堺丁四条下ル所若ヤ利兵衛トイフ逆旅ニ至ル。早

速仏光寺西洞院西へ入所竹谷^{たけや}南右エ門春臣ガ許へ状ヲ遣ス。春臣ハ浪
華へ下レルヨシニテ留守也。スグニ宿ヲ出テ丸太町ノ河東ニ貫名省吾

ガ許ニ行タルニ、三本木ノ月波楼へ行タルヨシニテ、ヤガテ彼家ヨリ
人遣シケルニ、ソナタニ来ルベキ由ニテ人ヲツケテ案内シタリ。行テ

見ルニ、梅辻春樵モ居タリ。兩人トモ七十四ノ老人也。春樵ハ高倉ノ
四条下ル所ニ居ル也。今一人^{つと} トイフモ居タリ。酒肴、夜フケ

テ逆旅ニカヘル。
十九日。晴。

京ヲ立テ伏見ニ出テ、夜舟ニテ下ル。〔割書〕〔十八匁八分、六百文〕

伏見。

廿日。晴。

大阪ニテ萩原広道ヲ訪ヒ、ソレヨリ秋バヤニ至ル。

廿一日。晴。

大阪滞留。

廿二日。晴。

夜二入テ船ニ乗ル。広道ガ亭ニテ京都竹谷春臣〔傍記〕〔角右エ門ト号ス。仏光寺西洞院西へ入処〕ト別ル。

金一步 直介ニカス。

廿三日。晴。

払曉浪華ヲ發ス。

(マ)

廿七日。

七ツ時敵島に着ク。阿波ヤ忠助ガ許ニ寓ス。舟賃ハ一兩ナルヲ瀬能ニ託シテ別ル。瀬能ハ直ニ船ニ乗ル。

広しま木綿、百万反位上ル。一反六匁位〔傍記〕〔下ノ分四匁〕、能美島バカリニテ二十万反バカリ。北堂島ニ白雀トイフ婦人ノ俳人、ミをつるト云大夫ヲ受出して遣フ。モト相場問屋也。女亭主今ハ隠居、ミをつるハ弟ノナジミ也。

よむふミハマまきのをハリになりぬるをいつまではれぬさミだれの空

十〔傍記〕〔廿九〕 八日。

広しまヨリ宮島ヘワタル。文陽・惣五郎二人送リ来ル。大年寄兒玉清右エ門方ヘ招カル。今夜芝居ノ振廻。

十〔傍記〕〔廿九〕 九日。 出立。

・ 式朱 宮島ニテ直介〔傍記〕〔但コノ内式朱トウロ又直介ヘカシノ分也〕

〔式朱 広しまにて同人

〔式朱 宮島にて同人

式朱 玖波ニテ

式朱 花岡ニテ

式朱 三田尻ニテ

式朱 山口ニテ

式朱 金三兩三分二朱

二十六匁一分

二貫九百九十五文 云々

〔以上 第七冊〕